

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum

交

い

かいじあむ通信

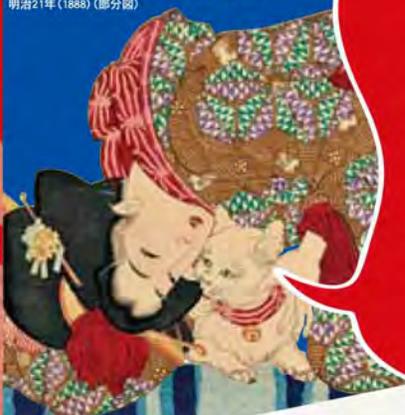
kai

第47号

平成30年2月23日発行
山梨県立博物館

「芳流閣両雄動」
明治18年(1885)(部分図)





あなたに ぴったりの 芳年はどれ？



芳年

激動の時代を生きた鬼才浮世絵師

YOSHITOSHI

平成30年
3月17日 土

5月14日 月

月岡芳年(つきおかよしとし)は、江戸から明治にかけて活躍した浮世絵師です。本展では、世界屈指の芳年コレクションで知られる西井正氣氏所蔵作品から、芳年の代表作をご紹介します。

全部で250点近くの
芳年作品が並ぶぞ！
これは見るしかない！！



→ はい
→ いいえ
質問にははい・いいえで答えていくと、あなたにぴったりの芳年作品に会えるかも？

スタート
はっきりした色合いの絵にひかれる

ヒーローが活躍するお話ときめく

カッコイイわしの好みであろう

ミュージアムショップでポストカードを買うなら武者絵より美人画

きれいなお姉さんがいいわよね

芳年の甲府道祖神祭幕絵を模写した屏風や山梨で描いた肖像画、芳年の弟子で山梨出身の画家の作品なども特別公開じゃ！

こちらをしっかり見つめてくれる人が好き

シンプルな着物が粋よね
そうね

着る物は無地より柄物を選ぶ

派手なほうがいいに決まってる！

幽霊や生霊を信じている



第1章で会える！
美勇水滸伝 黒雲皇子
—びゆうすいこでん くろくもおうじ—
慶応3年(1867)
美勇水滸伝は、物語に登場するヒーローが描かれたシリーズです。源頼光に恨みを抱く土蜘蛛が、黒雲皇子に妖術を授け復讐しようとしています。



第2章で会える！
魁題百撰相 駒木根八兵衛
—かいだいひやくせんそう こまぎねはちべいゑ—
明治元年(1868)
砲術の名人、駒木根八兵衛が鉄砲を構えているところ。彰義隊の姿になぞらえられているといわれています。



第3章で会える！
美人七陽華 正五位柳原愛子
—びじんしちやうか しょうごいやなぎわらなるこ—
明治11年(1878)
宮中の女性を花に見立てて描いた作品です。満開の桜と、着物に鮮やかに咲いた花模様が美しいですね。



第4章で会える！
月百姿 源氏夕顔巻
—つきひやくし げんじゆうがのおのまき—
明治19年(1886)
「源氏物語」の「夕顔」の巻がもとになっています。六条御息所の生霊が光源氏と共にいる夕顔に嫉妬し現れた場面です。

この期間に
会える！
5月26日～
6月25日

シンボル展
「山梨の明治
—新しい時代の幕開け—」

明治時代にタイムスリップ！ これはいったいいつのどこの写真なのかな？



天井がドーム型になっ
ているモダンな建物。これは
有信銀行という当時の銀行です。
明治時代は江戸時代以来の街並
みのなかに、こんな西洋風の
建物が混じっていました。

すっごーい！
人がいっぱい歩いているね！

上は右から左へ「奉迎」、下
は左から右に「WELCOME」
と書いてあるよ。この写真は
当時の皇太子（のちの大正
天皇）が甲府に来たときの歓
迎の様子を写しています。

みんなの服装を見てみると
まだ江戸時代みたいだね。

106年経った
現在は…？



同じ場所から見る
景色も全然違うね。

現在の道亀通り

電柱に「柳町三丁目」って書いてあるよ！

街なかに馬をつれた
人がいる！

道路にあるこの2本の
すじはなんだろう？
ヒントは馬に關係する
乗り物が通っていたよ。

明治45年の甲府市街地の写真 明治時代

これは今から約106年前の明治45年（1912）3～4月ごろ、
甲府市柳町二丁目（現在の甲府市中央4丁目付近）で撮影し
た写真です。

常設展テーマ展示 県立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています。

- 「富士山、信玄、春らんまん」 2.21[水]～4.16[月]
山梨の象徴といえば富士山と武田信玄。春らんまんの山梨で、富士山や信玄公にまつわる資料をお楽しみください。
- 「レキシ・トラベル to かいじあむ」 4.18[水]～6.18[月]
新緑のまぶしい季節、旅行シーズンの到来です。昔の人はどんなところを旅行して、どんな乗り物に乗ったのでしょうか。
- 「ようこそ！かいじあむ動物ワールドへ」 6.20[水]～8.20[月]
すっごーい！山梨にはこんなにたくさんの動物たちがいたんだね。かいじあむ動物ワールドには、人といっしょに働いた動物、狩りのための動物、観て楽しむ動物など、たくさんの動物たちがいるよ！
- 「山と共に生きる—甲州の山と人—」 8.22[水]～10.22[月]
山梨県の約8割は「山」です。山のくらし、仕事、信仰、そして絵画の中の山。様々な山の魅力を感じてください。

学芸員 おすすめの一品

収蔵資料の見どころを
ご紹介します。

こざくらがわおどしよらい かぶと おおそでつき
小桜韋威鎧 兜・大袖付（復元）平安・鎌倉時代
甲斐源氏の祖源義光（新羅三郎）が着用したと伝えられ、
武田家歴代の家宝として受け継がれてきた「楯無鎧」です。
復元にあたり鎌倉時代頃の姿を推定して制作されました。

御旗楯無、ご照覧あれ！

花菱紋の金具

鎧の随所に、武田の家紋である花菱紋の
金具が！古いものでは鎌倉時代にさかの
ぼるものもあるよ。



武田の象徴！

鮮やかな
姿を復元！



この期間に
会える！
2月21日～
4月16日
常設展
「富士山、信玄、
春らんまん」

勇ましい!?獅子の絵章

胴の部分などに貼られた絵章、よく見
てみると獅子の絵が描かれているよ。
勇ましくにも、かわいらしくも見
えるね。



鎧の名前にもなった 「小桜」の文様

威章に藍で桜の花びらの文様を染め
ているよ。復元のための調査で、小
桜文様を染めた後に韋全体をキハダ
で染めていた（「黄返し」といいます）
ことが判明しました。



御旗楯無

武田信玄の時代には、この鎧は着るためではなく、
家宝「日の丸の御旗」とともに信仰の対象となっていま
した。「御旗楯無」に向かって約束したことは、決して破
ることができないと考えられていました。

※ 絵章…章（動物の草）に様々な絵や模様型を使って染めたもの。
※ 威章…鎧の部品をつないで組み立てるために使う韋製のひも。小桜韋威鎧の絵章・威章には、鹿の韋が使われています。

シンボル展 2018.5.26[±]~6.25[月]

山梨の明治—新しい時代の幕開け—

今年、明治元年(1868)に山梨県が成立してから150年を迎えます(「山梨県」の名称は明治4年から)。「明治」とはどんな時代だったのでしょうか。多くの課題に取り組んでいった明治の人々の姿を振り返り、現在の私たちにとってのヒントを見つけてみてください。



明治45年(1912)の甲府八日町(現在のNTT甲府支店付近)の様子

夏期企画展 2018.7.14[±]~9.3[月]

誕生50周年 リカちゃん展

少女の夢と憧れを紡ぎ出したリカちゃんの世界観は、各時代のファッションや住宅事情、家族構成や価値観を映し出してきました。展示会場には歴代のドールやハウスなど約700点が勢揃い。あなたにとっての「わたしのリカちゃん」を探しに来てください。



秋期企画展 2018.10.13[±]~12.3[月]

文字が語る 古代甲斐国

山梨の古代史を物語る資料の中から特に「文字」に着目し、新たに明らかになってきた古代甲斐国の姿や、他地域との関わりなどをご紹介します。



甲州市ケカ子遺跡出土 土和歌刻書土器(甲州市教育委員会)

シンボル展 2019.1.12[±]~2.25[月]

『木喰上人作木彫佛』

一身延の木喰さん、世に出るその最初—

『木喰上人作木彫佛』は、柳宗悦の木喰研究の集大成ともいえる写真集です。本展では、平成30年(2018)に生誕300年を迎えた木喰研究の始まりなどについて、本書を中心にをご紹介します。

春期企画展 2019.3.16[±]~5.13[月]

県都甲府の500年

山梨県のほぼ中央に位置する甲府。武田信虎がここに本拠を移したのは、永正16年(1519)のことでした。この500年間の甲斐国・山梨県の政治・経済・文化の流れについて、「甲府」をひとつの切り口としてご紹介します。

イベントのご案内 2018.4月~9月

土 常設展スルーガイド

常設展のガイドツアーです。
毎週土曜日 11:00~11:30

● 古文書相談日

お手持ちの古文書についての相談を承ります。
開催日 5/13、7/8、9/9
時間 10:00~13:00
*古文書の全文解読や、資料の鑑定などお受けできない内容もあります。
*申込不要ですが、事前のご連絡があれば対応がスムーズです。(TEL055-261-2631)

● かいじあむ古文書講座

初めて古文書を学ぶ方のための講座です。
開催日 4/28、5/26、6/23、7/28、8/25
時間 13:30~15:00
*申込み(TEL055-261-2631)

日 遊ぼう!学ぼう!寺子屋ひろば

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。
毎週日曜日 11:00~11:30

● ボランティアによるお庭の見どころガイド

四季折々の博物館のお庭を散策します。
開催日 4/21、5/19、6/16、7/21、8/18、9/15
時間 13:30~14:30

● かいじあむ子ども工房

博物館ならではの体験や工作ができます。
開催日 4/14、5/12、6/9、7/14、8/11、9/8

□ その他イベント

*イベント毎に内容は異なります。
・こどもまつり 5/4・5
・夏休み自由研究プロジェクト 合同プレゼン 7/16(海の日) *会場はアイメッセ山梨です。
・夏まつり 8/14・15

2018年

4月							5月							6月							7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5								1	2	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				
芳年 3/17~5/14							山梨の明治 5/26~6/25							リカちゃん展 7/14~9/3													

8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4						1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
夏まつり							30						
リカちゃん展 7/14~9/3													

● 休館日 ● 古文書講座 ● 古文書相談日 ● 子ども工房
● お庭の見どころガイド □ その他イベント

*各イベントの詳細はホームページなどでご確認ください。
日程や内容は事情により変更になることもございます。



山梨県立博物館の旬な話題をお届け！

かいじあむトピックス

よろしく
たのむ

ライバル出現!?

きくかわえいざん

菊川英山の「武田信玄像」

山梨県立博物館所蔵の信玄像の中でも、有名なものとして土佐光起が描いた「武田信玄像」が挙げられますが、この度新たな信玄像が仲間入りしました。昨年当館に寄贈された村松(定史)家資料の中から、浮世絵師の菊川英山の手による信玄の肖像画が見つかったのです。



土佐光起「武田信玄像」 / 菊川英山「武田信玄像」

英山は江戸時代後期に活躍した浮世絵師で、美人画の名手として知られていました。その英山の武者絵というだけでも貴重なものですが、細部まで丁寧に描かれた本像は、光起の信玄像にも引けを取らない力強さが感じられるでしょう。英山の信玄像は、春の常設展示「富士山、信玄、春らんまん」(平成30年2月21日～4月16日)で常設展示室にて初公開いたしますので、ぜひ当館のニューフェイスに会いに来てください!

オリジナルグッズ販売中!

新しいミュージアムグッズが誕生しました! マスキングテープや筆箋、しおり、クリアファイルなど、当館資料をモチーフにデザインされています。ここでしか買えないグッズもありますので、ぜひお気に入りを見つけてください!



当館ミュージアムショップで販売!

利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)*5/1・8/14は開館、9/12～14は臨時閉館。

観覧料 常設展:一般510円、大学生210円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

*割引料金等につきましてはホームページなどでご確認、またはお問い合わせください。

かいじあむ通信「交い」第47号

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

Tel:055-261-2631 Fax:055-261-2632

E-mail:kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

URL:http://www.museum.pref.yamanashi.jp

発行日:2018年2月23日

編集・発行:山梨県立博物館



山梨県立博物館
公式 Twitter

kaiseum_ypm



ホームページQRコード

交い 山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交い(かい)」であるという説があります。山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。